

第 1 回皇居外苑の利用の在り方に関する懇談会 議事要旨

1. 日 時 令和 2 年 2 月 2 5 日 (火) 1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

2. 場 所 法曹会館 2 階 高砂の間

3. 出席者

【委員】(敬称略 50 音順)

石川 幹子 (東京大学 名誉教授 中央大学研究開発機構 教授)

岸井 隆幸 (日本大学理工学部土木工学科 特任教授)

デービッド・アトキンソン (株式会社小西美術工藝社 代表取締役 社長)

西村 幸夫 (神戸芸術工科大学芸術工学研究機構 機構長) 座長

羽毛田信吾 (昭和館 館長)

御厨 貴 (東京大学 名誉教授)

【環境省】

鳥居 敏男 (自然環境局長)

白石 隆夫 (大臣官房審議官)

庄子 真憲 (自然環境局総務課長)

宇賀神知則 (自然環境局総務課国民公園室長)

今井 正之 (自然環境局総務課国民公園室室長補佐)

西垣 えり (自然環境局総務課国民公園室)

今井 孝 (皇居外苑管理事務所長)

坂本 真一 (皇居外苑外苑管理事務所次長)

【事務局】

増澤 直 (株式会社地域環境計画 生物多様性推進上席マネージャー)

彦坂 洋信 (株式会社地域環境計画 東京支社生物多様性推進室長)

今野 尚美 (株式会社地域環境計画 東京支社生物多様性推進室リーダー)

4. 議事概要

発言者	内容
環境省	(資料 1 - 1 に基づき懇談会主旨説明)
事務局	(座長の選出について説明、西村委員が座長に選出)
事務局	(資料 2 - 1 皇居外苑の現況、資料 2 - 2 皇居外苑の歴史について説明)
環境省	(資料 2 - 3 皇居外苑の今後の利用の在り方に関する検討の背景・論点について説明)

西村座長	確認だが、利用に関する論点なので基本的に大きなインフラはこのままのものを前提にするということか。
環境省	そのとおり。
御厨委員	論点としては、利用の範囲を、あまり大きく変えることはしない中でもできることを示していくのか、大きく変えることも含められるのか。
環境省	大きく変える方針はないが、これまでを維持しつつより良い利用を検討したい。新しい施設整備を念頭においているわけではない。
石川委員	皇居外苑は明治期以降に人がつくりだしてきた、日本の原風景を育ててきた文化的景観である。公害の時代にも必死に守る努力によって生かしてきたクロマツがあり、東京でクロマツがこれだけ残っているところは他にはない。文化的景観の視点から、皇居外苑の本質、守るべきものは何かを懇談会でしっかり認識・共有したうえで、何が許容できるのかを議論すべきである。
西村座長	次回までに自然環境のデータを示していただきたい。
岸井委員	<p>特定のアクティビティを想定する前に、隣接する公園や地域も考慮して日常利用の改善を考えるべきである。例えば「日比谷公園のグランドデザイン」で議論した東京都市計画中央公園としてのインフォメーションサインについて、都と十分に調整しているか。今、皇居外苑に設置されているサインボードには、地下鉄駅が未だに「営団」と書いてあり、駅名も入っていない。</p> <p>また、広域的にとらえると、皇居外苑は東京・日本にとって非常に大事な空間なのだが、周辺の地域とのつながりを意識した広域的なマップがない。日常的に多くの方が利用できるような仕掛けを考えるべきではないか。そういう意味で、東京都にもぜひ一緒に聞いていただいて議論すべきである。</p> <p>北の丸公園のホームページをみても、国立近代美術館や科学技術館といった施設があることはわかるが、そこでいつどんなことをやっているのかといった情報発信等の気配りが充分ではない。皇居外苑から発信する情報が、東京の魅力にとっても大きな影響を持っていると思うため、まずそういうところから改善していくべきではないか。</p>
西村座長	日常的な利用に関して、また周辺も含めて議論すべきではないかということ、今回は周辺のこともデータとして考えていただきたい。

環境省	<p>日比谷公園との連携も大事な視点であり、東京都園緑地部の方にもヒアリングを行うほか、次回の会議にオブザーバーとして参加いただくことも考えている。サインボードについては東京都から話はうかがっており、調整している。</p>
羽毛田委員	<p>今の使われ方として、「国民公園として幅広い人々に親しまれていること」「我が国を代表する象徴的空間としての存在」「都心の貴重な水と緑の空間としての存在」が大事である。利用者に対する利便という意味で、インフォメーションのこと、散策する人の休憩場所のことなど、今後ともそういうことを大事にして、そういう利用を第一に考えていく。それと相いれないような利用方法は考えるべきでないという視点で、制約条件を考えていくべきではないか。</p>
アトキンソン委員	<p>3つのポイントがある。</p> <p>1つめは、歩くスペースとしてしか整備されておらず、座ってゆっくりくつろぐことのできる空間の工夫があるとよい。</p> <p>2つめは、極めて重要な文化的空間でもあるため、それらを見て楽しめるように、もう少し説明のサインがあった方がよい。</p> <p>3つめは、座って楽しむ場所と合わせて、飲食をどうするか、カフェ機能等をどうするのかということが非常に重要になる。特に海外から来て、ゆっくり体験していきたいという人が増えてきていることから、その様な需要があるものと思う。人がその空間に居たいと思って滞在し、その結果として美術館など周辺施設も見てもらえるという効果がある。</p> <p>これらのことから、そういう場所をもう少し増やせるのかどうなのか、今あるものを新しくする、考え方を必要なのが必要なのかどうか、ということを検討する余地はあるのではないかと。良質な時間を過ごしてもらうために、座る場所をどうするか、情報の提供をどうするのか、飲食対策をどう考えるか、それによって出てきたゴミはどうするのか、このセットが大事ではないか。</p>
西村座長	<p>非常に具体的に課題を提起していただいた。</p>
西村座長	<p>加えると、実際に天皇が住んでおられ、かつオフィシャルなセレモニーも行われている点が、海外の王宮前広場との違いであり、皇居の特色である。皇居前広場の照明に関しては、その様な状況に配慮して、住まいに近い側はあまり明るくしないという議論になった。その様な皇居の特色・個性との関係も意識しておかないといけない。</p>
事務局	<p>参考資料5にあるように、例えばタイ王国では、王様がその場所に住まわれ</p>

石川委員	<p>ているわけではなく、国家的行事のほか、宗教的・政治的な集会、コンサートや凧揚げ祭りなど楽しむイベントも催されるなど、皇居外苑よりも幅広い形で利用されている王宮前広場がいろいろある。</p> <p>海外の例でおもしろいのは、モスクワ市のクレムリン赤の広場のところで、古いホテルを壊して地下に美術館やコンサートホール等の施設を配し、その人工地盤上を公園として緑地にした。これにより、それまではただ歩いただけだった広場の人の流れが大きく変わり、座ってくつろぎ、楽しめる空間になった。皇居外苑ではそこまでのことはできないが、そういう流れなのだということが今回の論点の中にあると思う。</p>
石川委員	<p>国立公園のゾーニングの例があるが、広大な面積の国立公園はこの考えでよい。しかし、資料 2 - 3 の 9 ページにあるゾーニングというのは、現況はこうであるというだけであって、この現況にはいろいろ問題があり、それを乗り越えていかなければいけないものである。細切れになっている皇居前の空間にある問題を将来どのようにしていきたいのか、どのような利用がよいのかを考え、こういう空間なのだという強いメッセージが必要である。</p>
環境省	<p>大きくとらえると、皇居外苑地区は場所によって施設整備や皇居との位置関係にそれぞれ特徴があり、内堀通りの西側と東側で想定される利用形態が異なってくるのが考えられるのではないかと、という趣旨である。皇居外苑地区が一体となり、全体としての魅力を高めていくという視点は基本としてあるが、個別に新しい利用の有り方を考えるという点では少し分けて考えるというのもあるのではないかと。</p>
石川委員	<p>資料 2 - 1 の 3 ページ、資料 2 - 3 の 10 ページの図にある「皇居前広場」は、そこだけではない。この会議用に名前をつけたものとの理解でよいか。</p>
環境省	<p>今回の懇談会用に、内堀通りの西側エリアを便宜的に「皇居前広場」と呼んで資料に示したもので、例えば「正門前広場」など呼び方を整理工夫する。</p>
岸井委員	<p>お濠に近接する皇居外苑地区において、お濠の水質改善についてどのようなことができるのか、今の到達状況やこの地区が何か寄与できることがあるのかどうなのか検討すべきである。</p> <p>また、皇居外苑地区に来るバスの利用について、どんな人が、どこから来てどこへ行くのかを知りたい。それによって、レストハウスの中で案内すべきものや皇居外苑前後でのバス発着場の必要性などが考えられる。今の使われ</p>

	方に関する情報がもう少しほしい。
環境省	今後予定しているヒアリングで、観光関係機関からもそのあたりの情報を聞いていく。
岸井委員	今あるレストハウスやバス駐車場から得られるお金はどこがどのように使うのか、実際にどのようにお金が回っているのかも次回紹介してほしい。
羽毛田委員	利用者アンケートなどはあるのか。利用を推す意見だけを聞くのではなく、現に利用している人たちがどのようにしたらもっといいかということ、利用者自身がどういう希望を持っているのかが大事な視点である。
環境省	関係団体へのヒアリングの中で、そのような声も拾い上げていきたい。個々の利用者からの直接の声をどのように聞いていけるか、考えたい。
御厨委員	資料 2-2 にある明治 31 年奠都 30 年祭から、広場の利用が着目されるようになった。この催しは国ではなく東京都内の出版社が呼びかけて開催した会で、東京(江戸)の民衆が薩長(明治政府側)から取り戻し天皇・皇后を民の前に出すためのものだった。出席の予定だったが、結局は直前に出さなかった。皇居前広場は政府と市民との緊張関係の場であり、そうした歴史性を認識しておかないと、他の公園や何かと同じように考えられてしまう。我々としてはその様な歴史性を認識しておかないとまずいのではないか。
石川委員	まさにそのとおり。明治 37 年の提灯行列の事故は群衆雪崩が起きて多くの人が亡くなった。そこから凱旋道路ができて広場の性格が変わっていった。凱旋道路、内堀通りができて人の流入ができたが、それを支える空間自体は依然として皇居であり、その緊張関係が今でも続いている。 この会議でそこまで踏み込める時間的余裕はないと思うが、外の構図と内なるものと、その緊張関係を私たちはかなり真剣に受け止めて、利用の裾野をどうするのか考える、緊張関係に何らかの風穴を開けることができるのではないか。
岸井委員	皇居外苑が災害時退避場所になっているが、実際にはどういう準備がされているのか、どういう計画になっているのかということをお願い。
西村座長	たくさん宿題が出た。非常に哲学的な問題から周辺の問題、具体的なアクティビティをどのようにイメージするか、ユーザーが周辺との中でどのように動いているのか、また機能的には、広域避難場所としての意義づけ、植生や

事務局	<p>文化的景観の問題、など。</p> <p>次回までに議論を行うためのデータを用意していただきたいが、スピード感を持って最終的な着地点に向けて議論を進めていきたい。</p> <p>今後のスケジュールは資料 3 - 1 のとおり。第 2 回は令和 2 年 4 月 22 日水曜日の午前中、第 3 回は令和 2 年 6 月 3 日水曜日の午前中の予定。</p> <p>第 2 回では、第 1 回懇談会意見等の整理報告、必要な情報の提示、ヒアリング結果の報告のうえ、今後の利用の在り方に関する検討・議論を深めていただく予定。</p> <p>第 3 回では、第 2 回の意見等の整理報告、引き続きのヒアリング結果の報告の後、今後の利用の在り方に関する検討結果のまとめとする予定。</p> <p style="text-align: right;">以上。</p>
-----	--